

# 野田九条通信

2015年2月 110号

「野田・九条の会」事務局

Tel 7122-0502

野田・九条の会ホームページ

www43.tok2.com/home/article9nodan



戦後70年、地域から平和をつくろう

## 平和憲法を守り子孫に

松本 睦男

イラク戦争の最中に、米政府のアーミテージ氏が「集団的自衛権の行使禁止は、日米同盟の制約」と日本に改憲を迫り、自民党の靖国派が改憲策動を強めているとき、「平和と憲法の危機」と著名な9人の文化人が「憲法九条を守る」国民的運動を呼びかけるアピールを発表しました。アピールに応え、全国に「9条の会」が燎原の火の如く広がり、野田市にも「会」が結成されたのが10年前でした。

「会」の運動と世論の広がりによる紛争解決への道ではないま日本に必要なのは、武力

で、当時の改憲の企ては阻止されました。しかし、第二次安倍内閣になって秘密保護法の制定、武器輸出三原則の見直し、集団的自衛権容認の閣議決定と次々に「戦争のできる国」への動きが加速され、再び「平和と憲法の危機」が第一次の津波以上の大きさを襲い掛かってきました。約10年毎に戦争を繰り返していた戦前と異なり、戦後70年の平和を保ってきたのは平和憲法の力です。

「会」の運動と世論の広がりによる紛争解決への道ではないま日本に必要なのは、武力

野田・九条の会は、今年2月27日で結成10年になります。当時事務局長だった松本睦男さんに思いを寄せていただきました。

く、ノーベル平和賞にノミネートされた憲法9条に基づき、世界の国と友好関係を発展させ、紛争を話し合いで解決する外交努力です。二度に亘る大戦の教訓から「戦争は悪、話し合いで解決を」が世界の流れです。「戦争NO」に保守も革新も有りません。今こそ日本の宝「平和憲法」を守り、私たちの子孫と未来に受け継ぐ運動を広げるときです。

### 野田・九条の会 今年の年間計画は

集団的自衛権行使容認の閣議決定を跳ね返すための運動を、より多くの人たちに呼びかける行動を行う。



- 3月27日(金) 春の平和バスツアー 茨城県百里基地見学会
- 5月 野田市内で 集団的自衛権反対デモ行進
- 8月 「平和のつどい」参加
- 秋の講演会
- 毎月の9の日行動 ボードでのアピールと 個別訪問による署名活動

### 今月の予定

- 2月8日(日) 13:00~16:30  
今、教科書が危ない!!  
教育現場からの報告と TBS 報道特集『教科書はだれが選ぶ?』を見て意見交換  
南部梅郷公民館 南地域九条の会
- 2月14日(土) 14:00~16:00  
野田・九条の会定例会  
学習  
「第2回 現憲法と自民党改憲案を比較する」  
中央公民館学習室
- 2月15日(日) 14:00~17:00  
デモ行進プレ企画 市内パレード  
13:30 文化会館駐車場集合
- 2月20日(金) 13:00~16:00  
DVD 上映と懇談  
『子どもの未来を救え ~貧困の連鎖を断ち切るために~』  
樺のホール集会室2 けやき9条の会

文化会館駐車場 集合

↓  
ジャスコ  
↓  
みのわ 寿司  
↓  
愛宕駅  
↓  
樺のホール



2月15日(日)

市内パレードに参加してください

5月のデモ行進のプレ行動です。「活かそう憲法9条」のボードを持って、ゼッケンをつけて市内をパレードします。歩道を歩きます。途中からの参加もOKです。誰でも参加できます。友達も誘ってくださいね。

## 安倍首相の「積極的平和主義」は国民の命を守れるのか!!

### 統一地方選に注目!

「安倍降ろし」高まる気配

#### ■ 自民が怖れていた県知事選3連敗

1月11日に投開票された佐賀県知事選の「大惨敗」に自民党が真っ青になっている。主要与野党の相乗りを除く最近の知事選で3連敗をしたからだ。

一昨年7月の滋賀県知事選は、自民党推薦の小鐘氏が元民主党衆議院議員三日月氏に敗れた。石原環境大臣による「金目(かねめ)」失言問題、集団的自衛権行使に関する閣議決定等が相俟って政権批判が強まり、選挙戦に影響を与えたようだ。昨年11月の沖縄県知事選は、普天間飛行場の辺野古移設賛成の仲井真弘多氏が、辺野古移設反対の翁長雄志氏におよそ10万票の差をつけられて大敗した。



#### ■ 止めを刺した「佐賀の乱」

告示前は自民が全面支援した樋渡啓祐氏が圧勝とみられていたが、フタを開ければ、山口祥義氏に4万票もの大差で敗れた。自民党は選挙戦で大物閣僚を樋渡氏の応援演説に投入。3連敗は避けたいと“万全”の態勢を敷いたはずだった。それがまさかの苦杯だ。マスコミは、安倍政権が押し付ける農協改革に対し地元の農協が反発したと報じているが、次のような見方もある。自民党佐賀県連は当初佐々木豊成氏を候補に決めていたが、3連敗を懸念した官邸と党本部が、知名度の高い樋渡啓祐氏をムリヤリねじ込んだというもの。安倍政権のやり方がひどすぎると自民党支援団体も反旗を翻すほど。沖縄の構図と同じだ。選挙期間中、政府関係者は翁長さんに面会せず、予算を削減するという報復措置が報じられ、有権者の反感が高まったようだ。今回の結果は、こうした地方の民意を無視し身勝手な政策を押し付ける安倍政権の中央集権的な姿勢に地方の有権者が怒りを爆発させたのである。今後、地方から「安倍降ろし」の声が高まりそうだ。

(皆川 純磨)

## 報道の変質で平和日本を 変えさせてはならない!

#### ◆ 一方的報道を受容していてよいのか

昨年七月安倍政権は集団的自衛権行使容認の閣議決定をした。法制化は自衛隊の海外派兵が合法であるかのように装う内容となろう。政権はなし崩しのまた国民の抵抗感を削ごうとやっきになっている。

すでに新聞、テレビの一部は政権に迎合、忖度また自粛の報道が顕著になっている。天皇の「新年に当たり」では「満州事変に始まる・・・」の歴史認識に関わる一文を恣意的に削り購読者に知らせない。政権側から昨年末、在京テレビキー各局に対し選挙報道への圧力ともとれる文書が出た。しかし各社は本来突き返し統制しようとする実態を報道すべきところ何もせず地方紙がこれを報じた。各社代表者、政治論説者は相変わらず安倍首相声掛りの会食、ゴルフを重ねている。

一方、ネット空間では紅白出演の桑田佳祐氏の演出が偏狭な攻撃に晒され、また爆笑問題の政治ネタ自粛はNHK現体制の政権支配を窺わせる。これら報道機関から誘発される息苦しさはいったい何が秘かに進行しようとしているのか。このまま受容しているときではない。

#### ◆ 報道の本旨を見抜き監視する

国民は購読新聞一紙の報道を信ずるでしょう。テレビには代わり映えしない報道に皆揃って納得する。そこに安倍政権の得意とする情報操作がしっかりと挿し込まれる事になる。今国会からの集団的自衛権関連法案報道に無関心であってはなりません。中東情勢は緊迫度を増し安倍政権は積極的平和主義と弄して自ら関わり刺激し、国民を危険な領域へ追込もうとしています。安倍政権に対し厳しい報道を支持し、擁護を見抜き監視しなければなりません。



(片桐 直勝)